黒田みち
TEL 090-9987-7909
ブログ たんぽぽだより
黒田みち

迎春

炊き出し利用 年末年始最多

物価高 増す生活苦

"1食でも節約"

東京・池袋

生活に困窮する人たちを支援するNPO法人「TENOHASI（てのはし）」は、年が明けた2日も、東池袋中央公園（東京都豊島区）で、炊き出しや医療相談などを行いました。

支援物資を受け取りに来た路上生活者の男性(72)は「お正月は平凡で穏やかだった。ここではいいご飯を食べられる。仲間と来ている」と語ります。しかし、岸田文雄首相が今月、アメリカへの外遊を予定していることに対し「国民の暮らしが大変なのに、そこから逃げている」と話しました。

「保険証が手元になく、病院にかかれば全額自費。ここでは負担なしで相談できる」と話したのは、医療相談で順番を待っていた男性(72)。事情があり路上生活をせざるを得ないといいます。

東京五輪・パラリンピックで大量の弁当が廃棄されたことに、「もったいない。捨てるのなら、困っている人への支援を」と厳しく批判します。また、同大会の開催費用も「意味のないお金が膨れ上がった。自民党にはあきれている」と語りました。

TENOHASIの清野賢司代表理事は「今回の年末年始の来場者は過去最多。緊急的に支援が必要な人よりも、物価高騰などの影響で、じわじわと生活が厳しくなり、1食でも食費を節約しようとする人が多い印象だ」と語りました。

安倍氏銃撃事件半年

識者が語る

弱者踏みつける社会 つくってきた反省を

安倍晋三元首相銃撃事件の発生から8日で半年になります。統一協会（世界平和統一家庭連合）による被害が社会問題化し、政界にも影響が及びました。街頭演説中の元首相が白昼に射殺された衝撃的な事件の背景について、改めて識者に聴きました。

ジャーナリストの大谷昭宏氏は「安倍氏の影響力から、（協会の問題を）世間に一番知らしめられる方法を選んだ。言い分を通すため暴力に訴えるなら、戦争だっていいという話になる。絶対に認めてはならない」と批判します。一方で統一協会問題について、「これだけの問題を政治家やわれわれメディアが放置し、事件で気付かされたのは恥ずべきこと。容疑者の主張とは無関係に、責任を負わなければならない」と訴えました。

大谷氏は、留置場で暴行された男性が死亡した例など、昨年は声を上げられない弱い立場の人が踏みつけられる事件が相次いだと指摘。「今の社会は、マグマのようにたまったうっぷんを下へ下へと押し付けている。それが続くと、もう我慢できないと爆発する人が出てくる。そういう社会をつくったことを率直に反省しなければならない」と述べました。

社会学者の大澤真幸氏は銃撃事件後、オウム真理教によるテロ事件を連想したといいます。いずれも背景に宗教があったものの、「オウム事件は荒唐無稽な世界観から起きたが、今度の事件にはそうした要素は全くなかった。非常にストレートな苦しみや恨みから起こされた」と分析します。

社会から孤立した容疑者が起こした点で、銃撃事件と東京・秋葉原の無差別殺傷事件などとの類似性を指摘する声もありました。大澤氏は「秋葉原事件の元死刑囚は、自分の存在に注目してくれる『まなざし』がないことに苦痛を感じて凶行に及んだと感じるが、銃撃事件の容疑者は社会に対して何か助けを呼ぼうとする気持ちはなかったのではないか」と推測します。その上で、「『まなざし』の不在を当たり前のように受け入れ、渇望する意欲もないほど疎外された人がいることが、深刻な形で浮き彫りになった」と話しました。

統一協会問題については、「新興宗教に関して親子の間で断絶が生じることは昔からあったが、（オウムなど）宗教に入った子どもを親が取り戻そうとする構図が主だった。今回はそれが正反対になっている」と指摘します。

この紙面は「しんぶん赤旗」の切り抜き記事です。

おはよう

ニュース問答

「戦争か、平和か」の歴史的な岐路の年だね

みどり　あけましておめでとう。

晴男　おめでとう。新年はやはり身が引き締まるね。

みどり　今年は「戦争か、平和か」の歴史的な岐路の年になると思うよ。

晴男　どうしてそう思うの？

みどり　昨年末に岸田政権は、安保3文書を閣議決定した。安保3文書には「戦後の我が国の安全保障政策を実践面から大きく転換する」と書かれている。

危険な「大転換」

晴男　たしか、敵基地攻撃能力の保有を決めたんだよね。

みどり　これまで曲がりなりにも守ってきた「専守防衛」を捨てて、国家総動員体制を進める内容で、日本を「戦争をする国」にするための軍備増強を行う内容だ。しかも、5年で43兆円という大軍拡の財源は、所得税の増税や歳出改革といって社会保障削減を狙っている。国民の命と暮らしを破壊する内容だ。

晴男　岸田政権は、危険な「大転換」についてまともに説明してこなかった。

みどり　岸田政権は、安全保障政策の大転換の説明をしてこなかっただけではなくて、統一協会との癒着や政治とカネをめぐる疑惑についてのまともな説明をしてこなかった。

晴男　昨年10月以降わずかの期間で、4人の閣僚が事実上の更迭に追い込まれている。政権の体をなしていないよ。

みどり　世論調査の内閣支持率も下落が止まらない。異常円安による物価高騰に苦しむ国民の批判もある。政権の行き詰まりと危機は深刻だ。

追い詰める論戦

晴男　危機が深まるほどに、岸田政権は延命と保身のために、米国と財界の要求に応じる姿勢を示しているのかな。

みどり　そうだね。岸田政権は、安全保障政策の大転換だけではなく、原発事故の教訓を無視した原発運転期間の延長や新増設への転換をしたからね。

晴男　本当に危険な政権だね。今月末からの通常国会で岸田政権を追い詰めていく論戦と、国会外では国民的大運動を課題ごとに発展させることが大切だ。

みどり　もちろんそうだ。4月に統一地方選挙がある。岸田大軍拡ストップが大争点になる。大軍拡と正面対決する日本共産党の躍進が必要だ。

「赤旗」
月3497円（本体価格3238円）
月 930円（本体価格 861円）
希望伝える
しんぶん赤旗 日曜版
お申し込みは黒田みちまで
（090-9987-7909）